

には、リンクがあります。は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

事業所名 グループホーム **星の家**

日付 平成16年6月10日

評価機関名 有限会社
アウルメディカルサービス

評価調査員 看護師・大学福祉系講師

痴呆家族介護経験8年、障害者、老人介護支援実践者

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評 全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪ねる者に何かしらの安らぎを与えてくれる陽だまりのような施設である。管理者も自己主張をせず、常に自然体で相手本位にやさしく見守る姿勢で施設運営を心がけているため、まるで4月の風が吹き抜けるような爽やかさをスタッフ、入居者それぞれの表情から感じることができた。

家族の来訪も頻繁にあり、お互いの絆の深さを感じることのできる笑顔、笑い声に出会うことができ、グループホームの役割が十分果たされていることに安心した。

「生」を豊かなものとして支え、自分らしく生きることができるよう、いかに援助していけばいいのかが全職員が常に意識を持ちながら取り組んでいる。その一つとして音楽療法を取り入れている。訪問当日その場面に会うことができ、輝いている姿に感動した。

まだまだの部分はあるが、全職員が同じ方向に向かって進もうとする心意気を感じさせる。高い評価に値するホームである。

改善の余地があると思われる点
浴室の構造に潜在的な危険性がある。スタッフも認識しながら援助しているため今のところ問題は起きていないが、情報の共有化をしながら工夫するなどして事故防止に努めてほしい。
共有の生活空間の装飾は、必要以上に飾るのではなく、家庭として落ち着くものにしてほしい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か その人らしい生活を最大限にできるように援助する。そのために入居者がどのような人なのか、どのような自分史を築き、どのような生活をしてきたのかをまず理解し、その人が何を求め、どのように援助すればその人らしく生きることが出来るのかを追及する。			

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か せかしたり、必要以上の声かけををするのではなく、生活の流れを温かく見守っている。家族と気兼ねなく過ごせるような気配りがスタッフにできている。いい雰囲気作りがされている。 自室の窓から見える桜に目をやりながら「毎日を楽しみな」と頬を紅潮させながら教えてくれた表情は美しかった。			

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 入居者の生活、価値観を大切にされた援助により、生活の質をさらに向上させるように努める。「聴き上手」の態度、相手の警戒心を解き、信頼関係を向上させる。たとえば言葉の少ない人に対しても、ちょっとした声かけをする。話をきちんと聴く態度で接することで信頼関係が築けている。居室に入室する際、ノックするなど常識的なことがきちんと守られていて、入所者のプライバシーを尊重し、守ろうとする姿勢が、人格を尊重する介護につながっている。			

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 全職員がサービスの質の向上の必要性を認識し、勉強会・研修へ積極的に参加することで自己研鑽に努めている。日ごろより目配り、気配り心配りをすることで問題の発生を未然に防ぐように努めている。喫煙室を設置し、目の届くところでタバコを楽しんでいただき、その場を利用してコミュニケーションを図るなど常に相手本位の解決策を見出している。			